

# 2019年3月期 決算説明会資料

名古屋鉄道株式会社

【証券コード 9048】

2019年5月21日

# 01

## 決算実績・業績予想サマリー

## 連結業績

### 2018年度実績

### 2019年度通期予想

	2018年度実績			2019年度通期予想		
	実績	前期差	前回予想 (2月時点)差	今回予想	前期差	
営業収益	6,225 億円	+ 177 億円 + 2.9 %	+ 35 億円	6,350 億円	+ 124 億円 + 2.0 %	
営業利益	<span style="background-color: yellow;">過去最高</span> 494 億円	+ 24 億円 + 5.3 %	+ 19 億円	480 億円	14 億円 2.9 %	
経常利益	<span style="background-color: yellow;">過去最高</span> 515 億円	+ 30 億円 + 6.2 %	+ 25 億円	495 億円	20 億円 4.1 %	
親会社株主に帰属する 当期純利益	<span style="background-color: yellow;">過去最高</span> 304 億円	+ 17 億円 + 6.2 %	+ 14 億円	290 億円	14 億円 4.8 %	

### 決算実績ポイント

#### < 対前期 >

#### 【営業収益】 増収

- ・流通事業の増収(建設資材取扱増)
- ・トラック事業の増収(運賃単価上昇)
- ・鉄軌道事業の増収(輸送人員増)

#### 【営業利益】 増益

- ・増収により増益
- 燃料費は増加

#### < 対前回予想 >

#### 【営業収益】 増収

- ・流通事業の増収(免税売上増)
- ・その他事業の増収(設備工事受注増)

#### 【営業利益】 増益

- ・航空関連サービス事業の増益  
(作業進捗の上ブレによる増収)

### 通期予想ポイント

#### < 対前期 >

#### 【営業収益】 増収

- ・不動産事業の増収(マンション販売増)
- ・運送事業の増収(運賃単価上昇)
- ・鉄軌道事業の増収(輸送人員増)

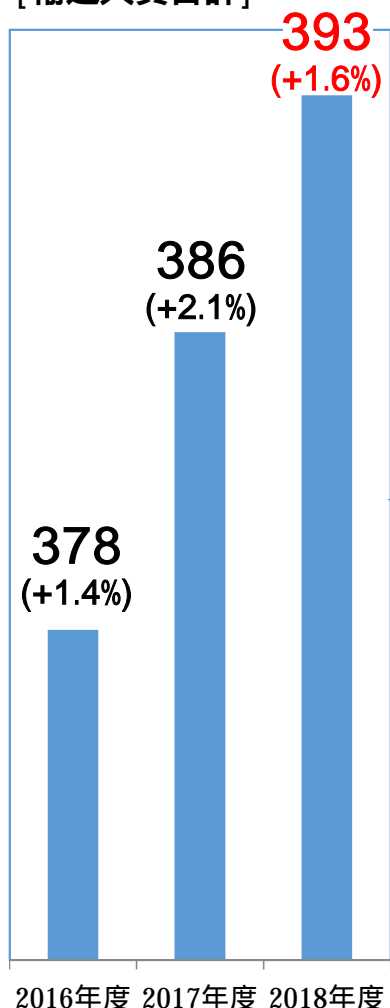
#### 【営業利益】 減益

- ・人件費、燃料費などの費用の増加

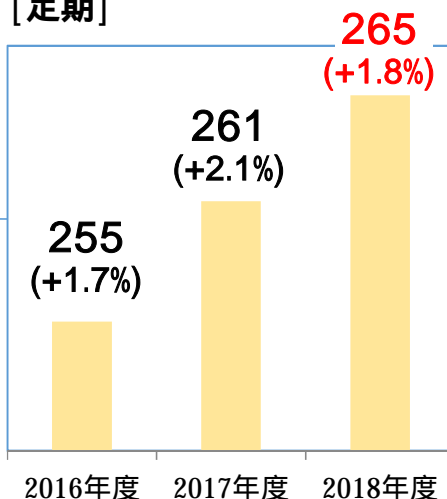
三河線、西尾線を中心とした通勤定期輸送人員の増加や、空港線の定期外輸送人員の増加などにより輸送人員は前期比+1.6%の増加。

## 【鉄軌道輸送人員数推移】 (単位:百万人、()は対前期増減率)

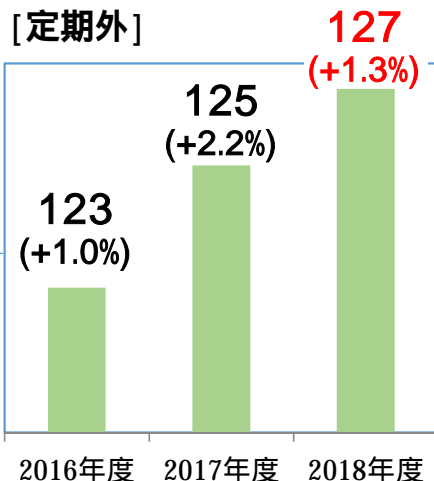
### [輸送人員合計]



### [定期]



### [定期外]



## 【主な増加要因】

### 三河線・西尾線の通勤定期輸送人員の増加

[三河線・西尾線 (通勤定期) 輸送人員増減率推移]

	(対前期増減率 (%))			(対前期増減率 (%))		
	2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
三河線	+3.6	+5.3	+4.3			
西尾線	+6.3	+7.9	+7.9			

・三河線、西尾線などの製造業生産拠点が集積する線区の通勤定期輸送人員は継続して増加。

### 空港線の定期外輸送人員の増加

[空港線 (定期外) 輸送人員増減率推移]

	(対前期増減率 (%))		
	2016年度	2017年度	2018年度
空港線	+4.0	+4.0	+10.3

・インバウンド需要の増加や、10月に開業したフライト・オブ・ドリームズによる集客効果に加え、9月に発生した関西国際空港一時閉鎖による影響等を受け、空港線の定期外の輸送人員は大きく増加。

< 台風21号による関西国際空港一時閉鎖の影響 >

閉鎖期間：9月5日～20日

空港線定期外輸送人員への影響：+7万人程度

一時閉鎖の特殊要因を除いた空港線定期外輸送人員対前期増減率：+9.2%



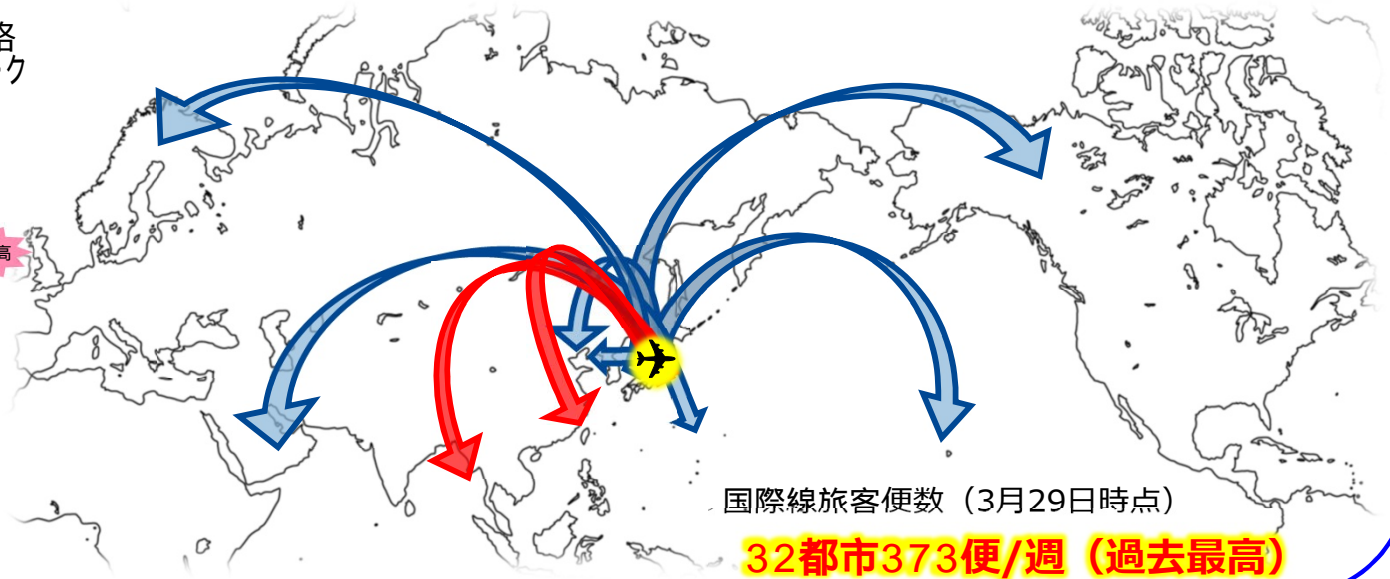
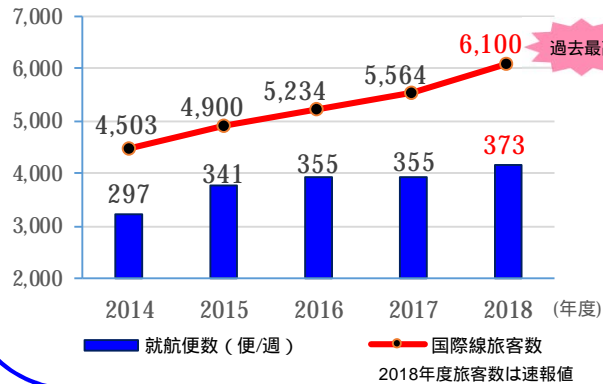
## 航空ネットワーク（国際線）の拡大状況

出典：中部国際空港(株)資料より当社作成

LCCによる台湾や東南アジアへの新規路線就航の増加を背景に、航空ネットワークは順調に拡大

### 国際線 航空旅客数と便数の推移

(単位：千人、便)

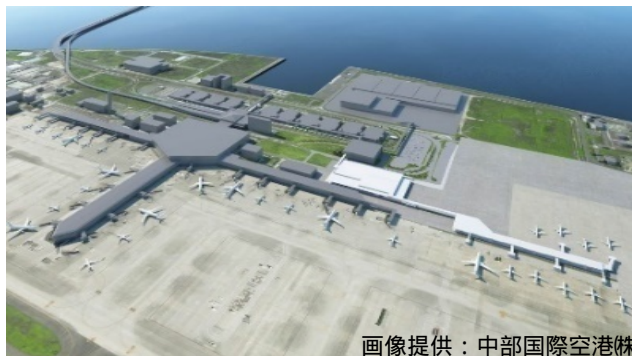


## 開港15年目を迎えた2019年



### 愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」

2019年8月30日開業予定  
 展示面積：約60,000m<sup>2</sup>  
 来場者数見込み：年間250万人  
 経済波及効果見込み：1,500億円



### LCC向け新ターミナルビル

2019年9月20日供用予定  
 延床面積：約45,000m<sup>2</sup>  
 年間取扱旅客数：国際線：300万人  
 国内線：150万人

**「第2の開港期」としてさらなる発展が見込まれる**

## 複合商業施設

### 「FLIGHT OF DREAMS」

2018年10月開業



・年間の来場者数目標：150万人

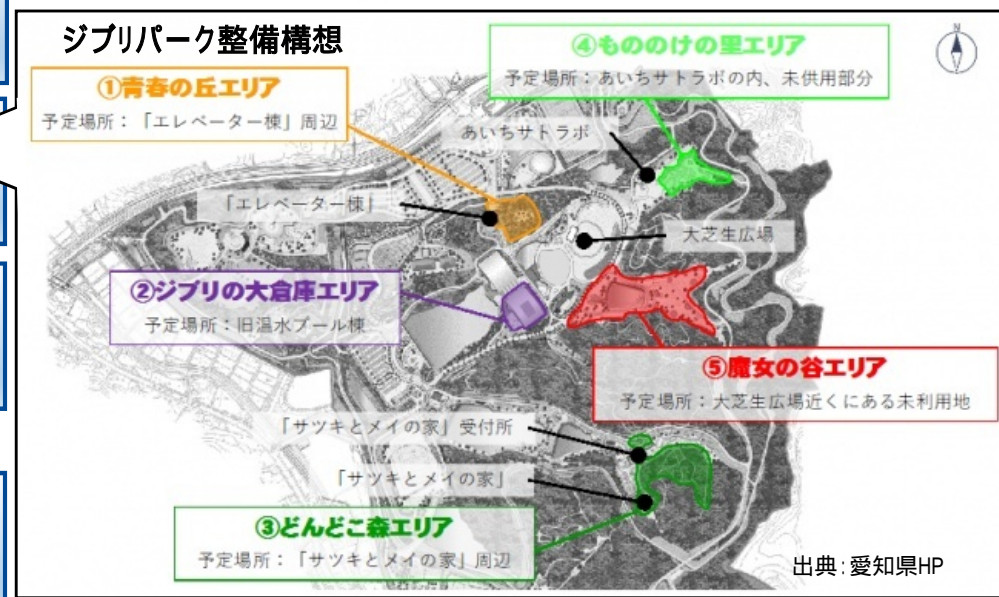
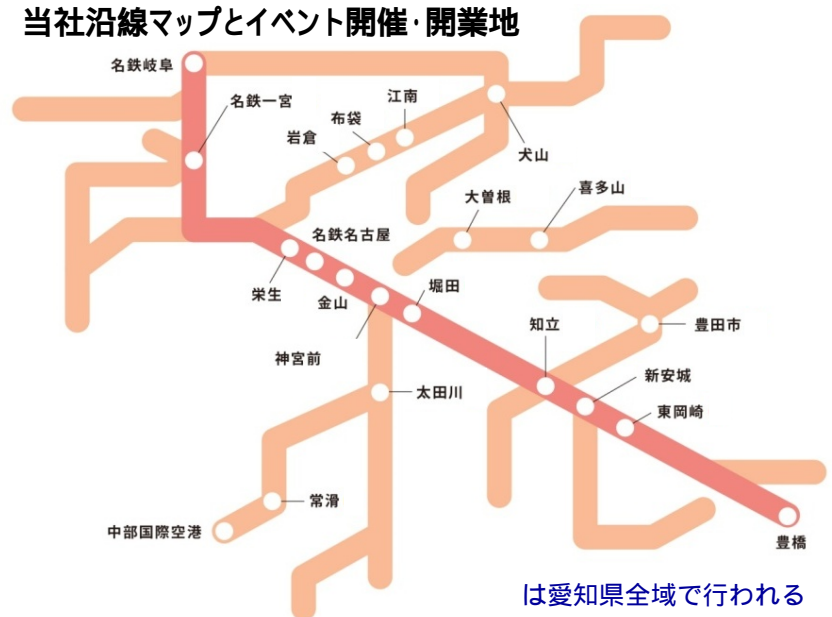
・3月末時点で累計約80万人を達成

**広域からの集客により、  
来館者数は順調に推移**

出典：中部国際空港(株)資料

当地域では、引続き人の流動を促すイベントの開催や施設のオープンが目白押し。

2019	<b>愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」開業</b> 開業地：愛知県常滑市 <b>2019年8月開業予定</b>
	<b>LCC向け新ターミナルビル供用開始</b> 所在地：愛知県常滑市 <b>2019年9月供用予定</b>
2020	<b>ラグビーワールドカップ2019開催</b> 開催地：愛知県豊田市他
	<b>ワールドロボットサミット2020開催</b> 開催地：愛知県常滑市
	<b>キッザニア開業</b> 開業予定地：名古屋市港区 <b>2020年度開業予定</b> 国内3か所目の出店となる子ども向け職業体験型テーマパーク。
2022	<b>ジブリパーク開業</b> 開業予定地：愛知県長久手市 <b>2022年秋～順次開業予定</b> 世界の人にも愛されるスタジオジブリのテーマパーク。
	<b>第20回アジア競技大会開催</b> 4年に1回開かれるアジア最大のスポーツイベント。 32年ぶりの日本開催で、愛知県と名古屋市の共催で行われる。
2026	<b>リニア中央新幹線 品川～名古屋間開業</b> 名古屋駅地区再開発と合わせ、 「世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ」へ。



## 02

# 名鉄グループ長期ビジョン・長期経営戦略 および中期経営計画の進捗

## 【長期ビジョン・長期経営戦略】

### VISION2030～未来への挑戦～

- 当社グループは、地域と共に生きる企業として、モビリティの提供やまちづくりを通じて、新たな魅力や価値を創造し続ける企業グループとなります。
- 変化する社会のニーズを積極的に取込み、新たなライフスタイル・豊かな生活の実現をサポートすることにより、持続的な成長を図ります。

### 長期経営戦略

- 日本一住みやすいまち、訪れたいエリアを創り上げ、定住人口と交流人口の拡大を図ります。
- 積極的な投資や新たなビジネス領域への果敢なチャレンジにより、収益力の向上を図ります。
- 人口減少、少子高齢社会においても持続的に成長するために、先端技術の活用などによる生産性の向上やイノベーションの創出に積極的に取り組みます。

## 【中期経営計画】

### 基本方針

2030年に向けて新たな魅力や価値を創造し、持続的に成長していく企業グループとなるため、「積極的な成長投資による事業基盤の拡大・収益力の強化」を図る。

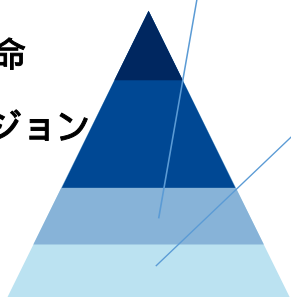
### 期間

2018年度～2020年度(3力年)

### 重点テーマ

- 1 名駅再開発の事業着手に向けた計画の推進
- 2 名古屋都心部における積極的な不動産事業の展開
- 3 魅力ある沿線・地域づくりの推進
- 4 成長事業への積極的な投資と収益力の向上
- 5 グループ事業のさらなる収益力強化
- 6 イノベーションを生み出す組織風土づくりおよび生産性向上に向けた取組みの推進

使命  
経営ビジョン





中期経営計画の着実な実行により、経営戦略で掲げる「定住人口・交流人口」の拡大を図る。

2018年度 ~ 2020年度

2021年度 ~ 2030年度

長期経営戦略

中期経営計画 BUILD UP 2020

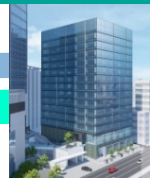
日本一  
住みやすい  
まち  
訪れたい  
エリアへ

目指したい  
営業利益  
水準  
700億円

目標  
営業利益  
500億円  
EBITDA  
930億円

【重点テーマ2】  
名古屋都心部における  
積極的な不動産事業の  
展開

【重点テーマ1】  
名駅再開発の事業着手  
に向けた計画の推進



【重点テーマ5】  
グループ事業の  
さらなる収益力強化



【重点テーマ3】  
魅力ある沿線・地域  
づくりの推進



BUILD UP 2020  
重点テーマ

【重点テーマ4】  
成長事業への積極的な  
投資と収益力の向上



【重点テーマ6】  
イノベーションを生み出す  
組織風土づくりおよび生産性  
向上に向けた取組みの推進



定住人口  
の拡大



交流人口  
の拡大



利便性向上を図るため名鉄名古屋駅の線路数を現行の2線から4線へ。

## ➤再開発施設の概要（案）

利便性の高いターミナル機能の形成を図るとともに、南北に長い敷地特性を活かし、まちに開かれ、まちと一体となって賑わいを創出することにより、再開発エリアの価値最大化を目指す。



商業、オフィス、ホテル、レジデンスを中心とした用途を、適正規模で効率的に配置。

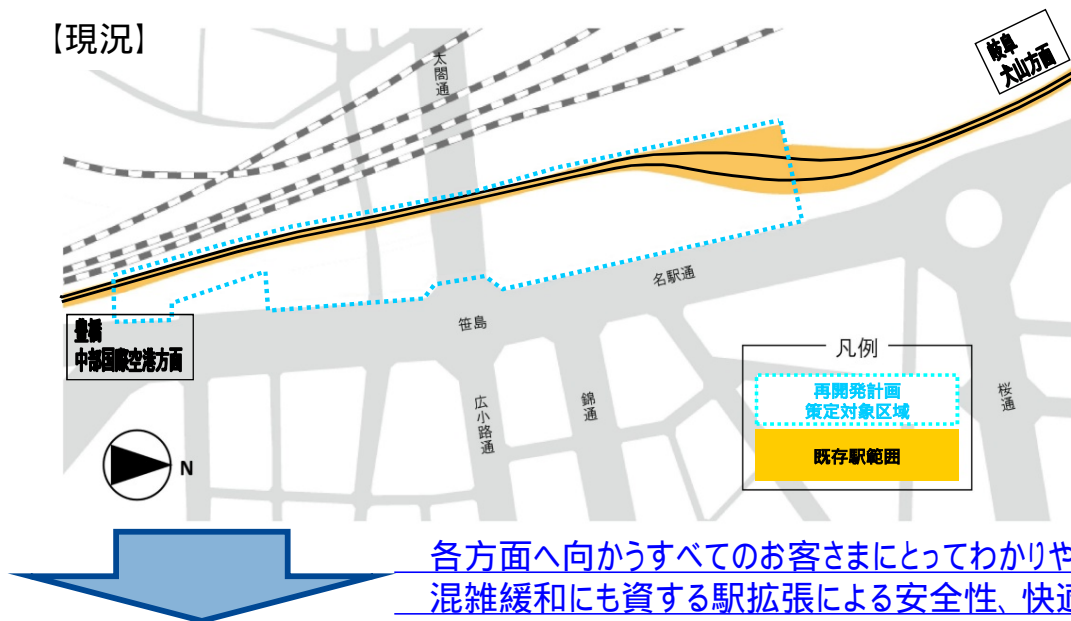
## ➤目標スケジュール

2022年度 工事着手

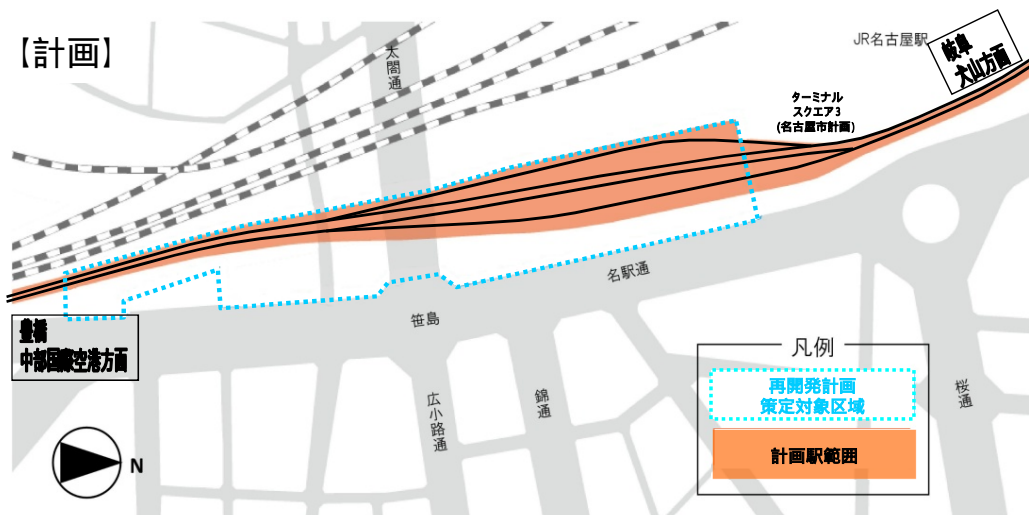
駅機能の整備については、リニア中央新幹線開業時を目標に進める。

## ➤名鉄名古屋駅4線化計画について

【現況】



【計画】



(注) 本資料は現時点での検討段階のイメージ図であり未決定。今後、周辺地権者・行政等との協議により変更となる場合あり。



## 名古屋駅地区と栄地区の回遊性を向上させ、都心一体のまちづくりにつなげる。

● ... 開発検討中物件および  
2018年度取得物件

**栄開発の連結子会社化**

持分法適用会社であった栄開発を2019年3月に連結子会社化。  
栄地区での不動産事業を強化していく。運営ビルSKYLE および SAKAE NOVA は「名古屋三越 栄店」や「名古屋三越 ラシック店」等がある栄の中心地に立地。

**地下鉄伏見駅での「駅ナカ」事業の運営**

延床面積：約900m<sup>2</sup>  
開業時期：2019年度中

イメージパース

**名駅南地区まちづくり協議会**（2016年7月設立。当社が協議会の副会長を務める。）

- まちづくりビジョン策定、行政への提言等を実施

【まちの将来像】  
みんなの希望がかなうまち  
キラリ輝くメイエキサザンクロス

【まちづくりの方針】  
みんなの希望（〇〇したい）を  
かなえるまちを目指します。

名駅南  
(メイエキ・サザン)

ひと・まち・文化が  
交流(クロス)するまち

メイエキ  
サザン  
クロス

【住・生・コミュニティ】  
住みたい 働きたい 憩いたい  
心地よいオアシスのまち

【賑わい・活動】  
創りたい 楽しみたい  
わくわくドキドキ集うまち

【交通・回遊性】  
訪れたい 寄り道したい  
ふらりフラフラできるまち

【安心安全・環境・景観】  
明るいきれい ほっとしたい  
スマイルあふれるやさしいまち

出典：名駅南地区まちづくり協議会HP

出典：国土地理院WEBサイト(<http://maps.gsi.go.jp/>)をもとに当社にて加工



地域と連携しながら拠点駅を整備し、日本一住みやすいまち、訪れたいエリア創りに取り組む。

## ➤ 神宮前駅前の開発計画

神宮前駅 ... 名鉄名古屋駅から電車で最短6分、中部国際空港駅から21分と利便性が高く、年間約700万人が訪れる熱田神宮の玄関口。



東街区は「おとなの住みたいまち」、  
西街区は「おとなの行きたいまち」  
というコンセプトの下、  
魅力ある沿線・地域づくりを行う

### エムズシティ神宮前 (2019年9月引渡開始予定)



名鉄名古屋駅へのアクセスと良好な  
住環境が両立した新築分譲マンション  
「神宮前駅」徒歩5分  
186戸予定

### 神宮前駅西街区 開発事業（検討中）



年間約700万人が訪れる  
熱田神宮に面した立地を  
活かし、開発を検討。

### 神宮前駅東街区開発事業（2020年度内開業予定）

～ 地域住民や駅利用者の生活拠点となる施設を開発～

敷地面積：約6,700㎡

延床面積：約14,400㎡

用途：商業施設  
(20店舗程度)  
賃貸住宅  
(計90戸程度)



## ➤ 高架化事業の推進

安全対策の推進と都市計画事業の  
一環として高架化工事を継続して実施。

### 【知立駅付近高架化】



名古屋本線 一ツ木駅～牛田駅間	1.6km
三河線 重原駅～三河八橋駅間	3.4km

### 【喜多山駅付近高架化】 【布袋駅付近高架化】



瀬戸線 小幡駅～ 大森・金城学院前駅間	1.9km
---------------------------	-------



犬山線 石仏駅～江南駅間	1.8km
-----------------	-------



商業施設の開発・再生等を通じて保有資産の価値を向上させ、地域に新たな賑わいを創出する。

- **商業施設の開発・再生** 商業施設「μPLAT（ミュープラット）」の展開  
駅前の利便性を高め賑わいを創出することで地域の活性化に貢献していく。

# μPLAT



μPLAT一宮  
(2021年春開業予定)



μPLAT神宮前  
(2020年度内開業予定)



μPLAT大曽根  
(2020年春開業予定)



μPLAT常滑 (2018年10月開業)



μPLAT江南 (2018年9月より順次開業)

- **資産バリューアップの推進** 名鉄瀬戸線 清水駅～尼ヶ坂駅間高架下開発

SAKUMACHI 商店街Ⅰ期エリア (2019年3月 開業)

期エリア 概要

所在地 : 名古屋市北区大杉  
(名鉄瀬戸線 清水駅 - 尼ヶ坂駅間)  
建物規模 : 木造平屋建 延床面積 951㎡  
店舗数 : 7店舗

「あたらしいまちの景色を、高架下から」をコンセプトに、当社初となる駅間をつなぐ商業施設として、まちの更なる一体感と、本エリアに訪れる人々との交流創出に寄与できる施設を展開する。

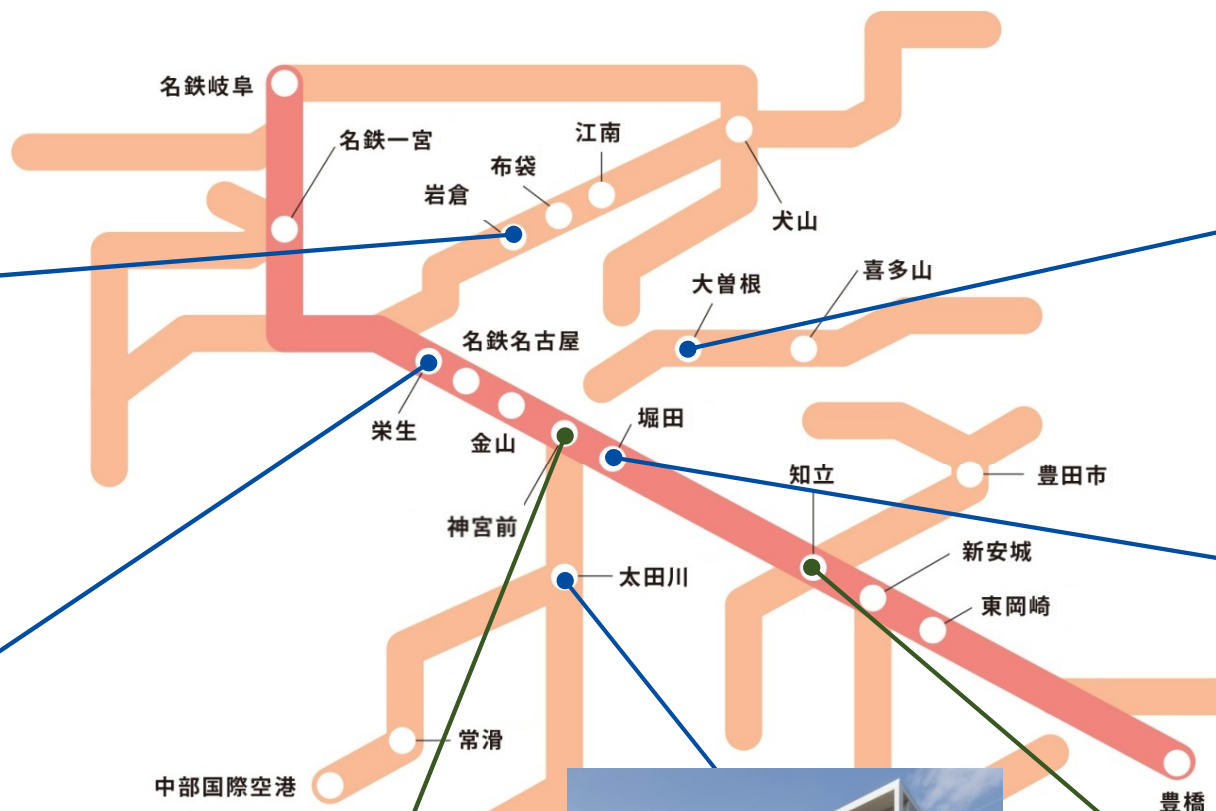




## 沿線での賃貸・分譲マンションの開発を通して定住人口の拡大に努める。

### ➤ 賃貸マンション「meLiV」の開発促進、沿線における分譲マンション開発

駅付近の利便性の高いマンション開発を積極的に推進。定住人口の拡大を促すとともに沿線価値向上に寄与。



## 社会環境の変化や地域のニーズに合わせた事業を展開し、沿線・地域の価値創造に努める。

### ➤ 健康・レジャー事業の展開



イメージパース

地域に日常型レジャーを提供することで、  
コミュニティの場を創出

所在地：愛知県豊橋市飯村南  
敷地面積：約5,917 m<sup>2</sup>  
建物概要：(1)温浴棟 鉄骨造・地上2階建  
延床面積 約2,555 m<sup>2</sup>  
(2)立体駐車場棟 鉄骨造・地上2階建  
延床面積 約2,377 m<sup>2</sup>

2019 年度冬 開業 (予定)

### ➤ 予防介護・保育事業の展開

・名鉄レコードブック  
(リハビリ型デイサービス事業)  
15店舗 (2019年5月現在)

2018～2020年度の  
3年間で30店舗目標

・TELACO  
(アフタースクール事業)  
5校 (2019年5月現在)  
プログラミング教室含む)

将来的に20校目標

・めいてつ保育ステーションぽっぽ園  
(小規模保育事業)  
8園 (2019年5月現在)

将来的に20園目標

名鉄のブランド力を活かし、健康・子育て等の生活をサポート





鉄道利用者の利便性や沿線価値の向上を図るため、ダイヤ改正の実施、車両の新造およびICT, IoTの活用による新サービスの導入に取り組む。

## ➤ ダイヤ改正の実施 (2019.3.16～)

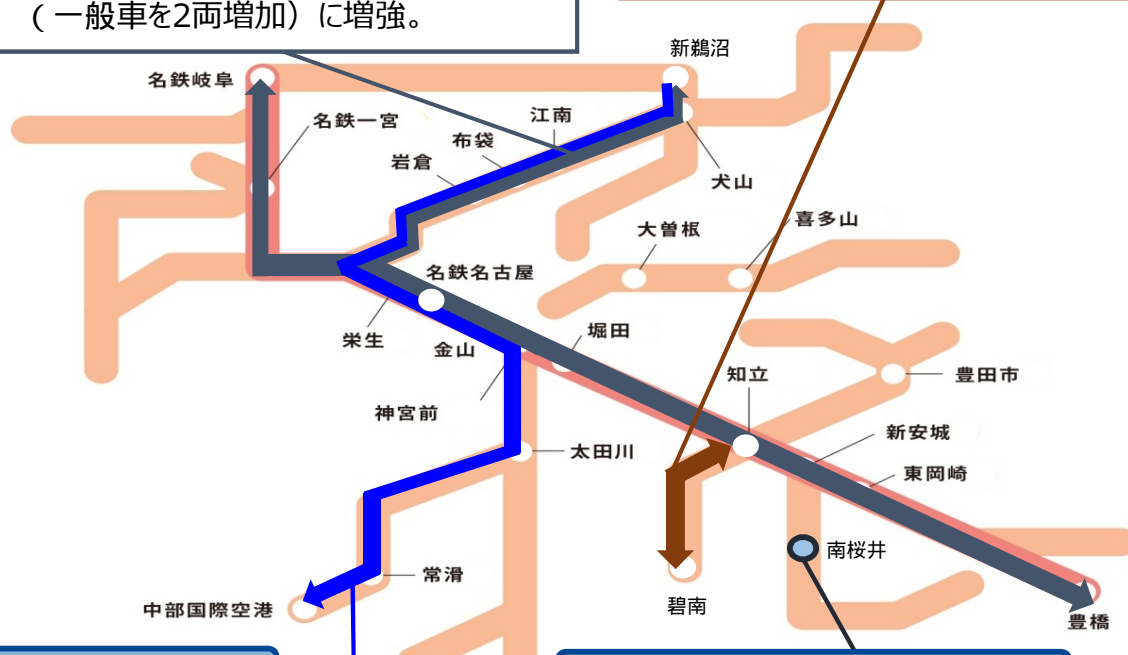
7年ぶりの改正

### 土休日名古屋地区の利用の活発化

土休日夕間帯  
豊橋～名鉄岐阜・新鵜沼間一部  
特別車の「快速特急」「特急」について、  
上下合わせて24本を、6両から8両  
(一般車を2両増加)に増強。

### 沿線企業の好況による利用好調

深夜帯の三河線  
知立～碧南駅間において  
23時台の列車を1往復増発。



### 空港需要の増加

平日の早朝帯における中部国際空港  
行ミュスカイを4両→8両に増強。  
また、土休日の名鉄名古屋駅からの  
中部国際空港行列車を1本増発。

### 沿線企業の好況による利用好調

西尾線 南桜井駅を「急行」  
停車駅に格上げ。  
9時から16時台までの停車列車が、  
上下それぞれ毎時2本から4本に。

## ➤ 車両の新造 (9500系を16両(4両組成×4編成))

当社初の車内防犯カメラ、  
多言語に対応した車内案内表示器、  
および無料Wi-Fiサービスを搭載。

従来車両に比べ消費電力約20%削減



9500系

## ➤ 「名鉄ネット予約サービス」の開始

特別車の利用者への利便性および快適性  
の向上を目指し、特別車両券(ミュチケット)  
のインターネット予約を開始。

運用開始日 2019.5.18～



サービス画面イメージ

## ➤ お忘れ物自動通知サービス 「MAMORIO」の運用開始

MAMORIO(株)の提供する忘れ物通知  
サービスを導入。(東海地方では初)

運用開始日 2018.12.18～



紛失防止タグ

### サービス内容イメージ



紛失防止タグの付いた  
荷物が専用アンテナ設置  
駅に届くと、位置情報を  
利用者のスマートフォンに  
自動的に通知。

さらなるインバウンド需要の取込みを目指して、グループの総合力を活かしたプロモーション活動を行うと共に、訪日外国人旅行者のための利便性の高い環境（おもてなし）を整備。

## ➤ インバウンド需要取込みのための営業・サービス強化

### 直近のインバウンド事業への取組みの進捗

- ・デジタルマーケティングの活用
- ・海外事務所の活用
- ・グループの連携強化



継続した  
プロモーション

- ・OTAやLCCとの共同プロモーション
- ・現地旅行博への出展
- ・海外向け公式Facebookページ
- ・中部・北陸地域観光情報サイト開設



さらなる需要の  
取込みへ

体制強化

当社グループ  
インバウンド戦略

受入環境整備

20XX年度

2016年度

インバウンド  
関連売上  
※1  
66億円

2017年度

85億円

2018年度

115億円

- ・無料Wi-Fiサービスの拡大
- ・外国人向けツーリストインフォメーションセンターの開設
- ・駅構内および車内案内の多言語化
- ・QRコード決済の導入拡大



今後も需要が見込まれる地域での宿泊特化型ホテルの出店や観光施設の魅力向上に寄与する投資により、収益力の向上を図る。

## ➤ ホテル・観光施設への積極的な投資

### 宿泊特化型ホテルの展開強化 ～関西圏進出～



イメージパース

名鉄イン新大阪駅東口（仮称）

（2020年5月開業予定）

【所在地】  
JR「新大阪駅」徒歩3分  
【建物規模】  
地上10階  
【総客室数】  
120室



イメージパース

ホテルミュッセ  
京都 四条河原町 名鉄（仮称）

（2020年秋開業予定）

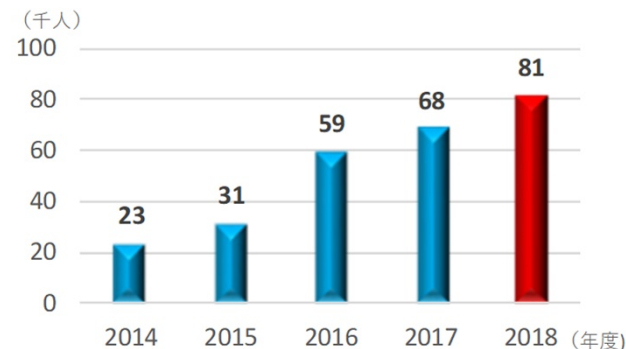
【所在地】  
阪急「河原町駅」徒歩3分  
【建物規模】  
地上9階  
【総客室数】  
109室

新大阪に続き京都にも出店することで、  
関西圏での収益拡大とブランドの認知度アップを図る

### 観光施設の魅力向上策 ～新穂高ロープウェイ～

飛騨・高山エリア -昇龍道エリアの観光拠点-

新穂高ロープウェイ インバウンド利用人員実績



○「期間限定 星空観賞便」

天空に煌めく 天然イルミネーション



標高2,156mの山頂展望台から満天の星空を眺めることができる夜間便を、春・夏・秋に期間限定で運行



2020年の開業50周年に向け、更なる集客力のアップを図る



名鉄MaaSを具現化するためのプラットフォームの整備

当社グループの取組み

公式アプリ「名鉄Touch」

名鉄電車・バス等の運行情報や乗換案内をはじめ名鉄グループが提供するサービスの検索や予約ができる公式アプリ



- 鉄道・バス運行情報
- 鉄道・バスの乗換案内
- 特急特別車の予約
- タクシー配車
- カーシェア予約
- パーキング情報
- 高速バス予約
- manaca残額照会

提供開始 2012年9月18日  
累計47万ダウンロード(2019年3月末時点)

目指す姿

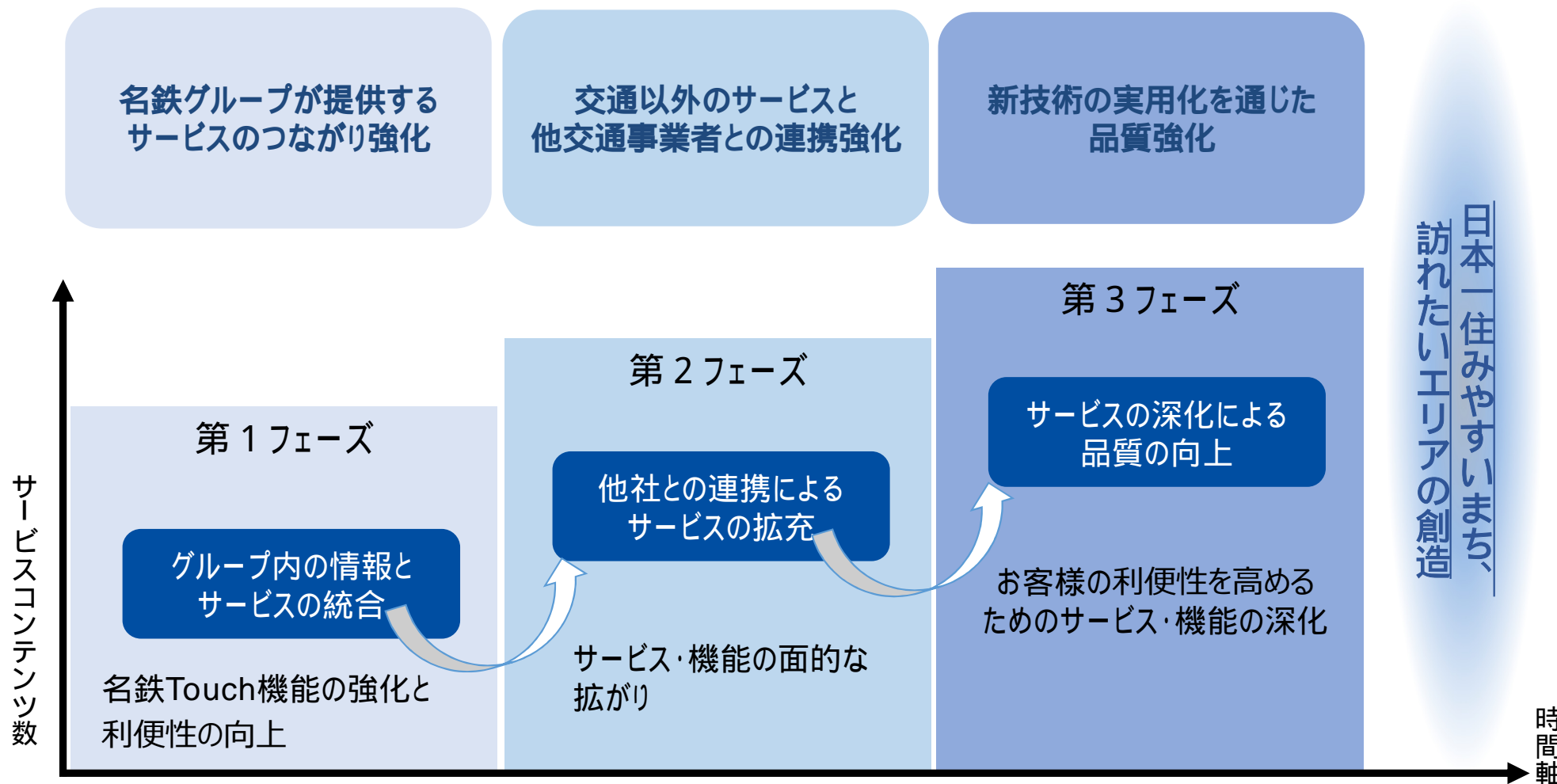
中部圏での移動に便利なプラットフォームの提供

名鉄Touch機能の強化と利便性の向上

1. 検索対象・提供情報の拡大
2. 予約・決済機能の搭載

## 名鉄グループとして取組むMaaSの目指すべき方向性

➤ フェーズごとに目標を設定し、プラットフォームの整備と提供するサービスの質と量の向上を図る





将来的なモビリティの変化を見据えた技術の積極的な導入。

## ➤ 自動運転バスの実証実験



実証実験車両



出発式の様子



実証実験コース

### 実験日程

2019年4月8日～4月12日

### 実施場所

瀬戸線尾張旭駅（尾張旭市） 愛知医科大学病院(長久手市) 4.5km

- ・群馬大学と協働し、**愛知県内で初**の公道におけるバスの自動運転の実証実験を実施
- ・交通量が多い市道、踏切の横断、バス停の正着制御、右左折の実験を含む、**4.5km**の長いコースを走行
- ・同時に、実証実験車両内において、**顔認証システム**を活用した乗車時における本人確認の実験を実施





## ・AI、RPAの導入

AI、RPA活用による生産性の向上と業務処理の高度化に取り組む。

### AI

#### ➤今後の展開（予定）

育てたモデルを活用し、本格的な対応業務の一部代替へ寄与させる。

STEP1 (2018年度)

STEP2 (2019年度)

STEP3,4

#### チャットボットの導入

・チャットボットによる自動回答の検証など



#### 音声分析・オペレータ支援の導入

・お客さまセンターオペレータ対応支援など



(2020年度以降)

さらなる  
対応範囲  
の拡大へ

### RPA

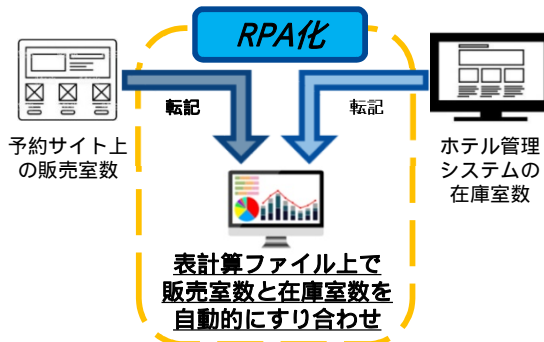
#### ➤名鉄グループのRPA導入の動き

日常的定型業務の自動化により、仕事の効率化を各社にて推進。

活用事例（名鉄イン）

ホテルの空室状況確認作業を自動化。導入ホテルの拡大を進めている。

- ・作業時間 1時間/回 20分/回
- ・属人化作業からの解放
- ・業務処理の高度化



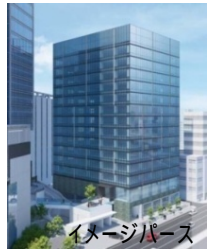
## ・ESGの取組み

環境配慮や文化貢献を意識しつつ、新たな収益源や魅力の創出に取り組む。

### ESG

#### ➤名古屋鉄道「ESG経営支援ローン」の成約

名古屋鉄道では、2020年夏頃竣工予定の名駅一丁目における三菱倉庫(株)とのオフィスビル建設共同事業を用途とした「ESG経営支援ローン」を成約。同ローンの成約は中部地区で初めての事例。



イメージパース  
(仮称)名駅一丁目計画  
CASBEE名古屋 Aランク

契約先：三菱UFJ銀行  
MUFG ESG評価：「特に進んでいるESG経営」(Aランク)  
JCRグリーンローン評価：Green1

#### ➤名古屋鉄道「DBJ環境格付」の取得

名古屋鉄道の環境に配慮した企業経営が評価され、日本政策投資銀行より「環境への配慮に対する取り組みが先進的」という環境格付を取得。



#### ➤明治村 オルガンの音色復活プロジェクト

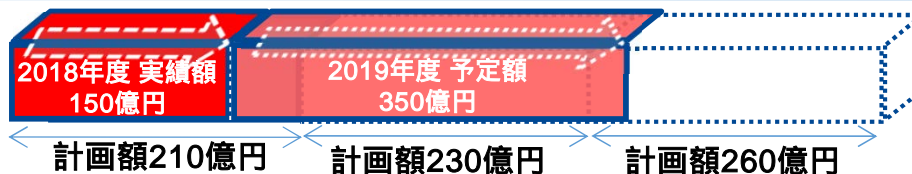
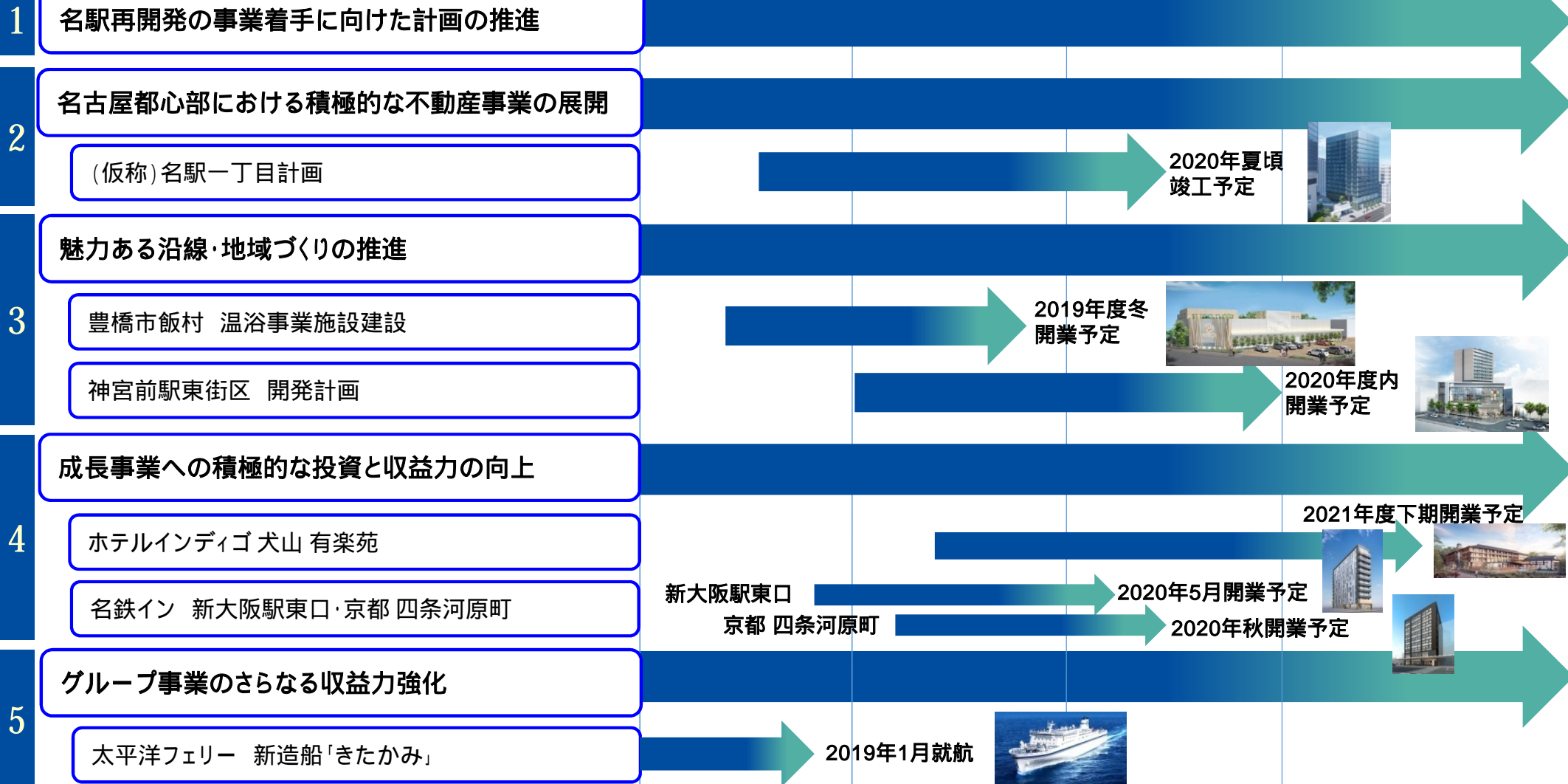
昨年11月から12月にかけて、クラウドファンディングサイト「ready for」にて聖ヨハネ教会堂で展示しているオルガン修理の資金を募り、目標を上回る寄附金額を調達。修理完了は本年9月頃を予定しており、復活後は、コンサートの開催や子供たちの合唱の伴奏として使用していただく機会を設けることで、お客さまに明治文化を体験できる場を提供していく。





重点テーマ

BUILD UP 2020			次期中計
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度以降



03

# 2019年3月期 決算実績

( ) は増減率

(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減	摘 要	直近見込 (2月公表値)	増減
営業収益	622,567	604,804	17,763 (2.9)		619,000	3,567 (0.6)
営業費用	573,112	557,827	15,284	商製品売上原価 +6,677 燃料費 +1,655	571,500	1,612
営業利益	49,455	46,976	2,479 (5.3)		47,500	1,955 (4.1)
経常利益	51,599	48,566	3,033 (6.2)	営業外収益 +72 (受取配当金 +59) 営業外費用 481 (支払利息 285)	49,000	2,599 (5.3)
特別利益	5,013	3,456	1,556	負ののれん発生益+1,078 固定資産売却益 +524	4,500	513
特別損失	10,492	6,606	3,886	固定資産売却損 +5,555 減損損失 2,419	8,000	2,492
税金等調整前 当期純利益	46,120	45,417	703 (1.5)		45,500	620 (1.4)
法人税等	14,132	14,030	102		14,000	132
非支配株主利益	1,530	2,695	△ 1,164		2,500	△ 969
親会社株主に帰属する 当期純利益	30,457	28,691	1,765 (6.2)		29,000	1,457 (5.0)

## 【連結子会社および持分法適用会社の異動状況(対前期末)】

連結子会社117社( 2社) : 増加2社 名鉄協商パーキングWEST(新規加入)、栄開発(区分変更)  
減少4社 北陸名鉄急配(被合併)、名鉄協商パーキング(被合併)  
名鉄バス中部(被合併)、名鉄バス東部(被合併)

持分法適用会社15社( 1社) : 減少1社 栄開発(区分変更)

**対前期：増収・増益**（流通事業、運送事業を中心に増収。鉄軌道事業の輸送人員増加などにより増益。各段階の利益は過去最高。）

営業収益	+ 177億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ その他物品販売 + 85（建設資材取扱の増加など）</li> <li>+ トラック事業 + 40（セグメント内取引消去後 &lt;運賃単価の上昇&gt;）</li> <li>+ 鉄軌道事業 + 18（輸送人員 + 1.6%）</li> <li>+ 不動産事業 + 28（駐車場収入増 + 14&lt;駐車場数の増加&gt; 新規賃貸物件&lt;グライトイ-スト芝浦、meLiVシリーズ&gt;収入寄与） （マンション販売の増収 + 11：販売戸数980戸 991戸）</li> </ul>	（単位：億円）
営業費用	+ 152億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ 商製品売上原価 + 66（流通事業 + 67）</li> <li>+ 燃料費 + 16（交通事業 + 8 運送事業 + 8）</li> </ul>	
営業利益	+ 24億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ 鉄軌道事業 + 11（輸送人員の増加による）</li> <li>+ 航空関連サービス事業 + 8.5（自然災害等に伴う受注増加による）</li> <li>+ 不動産事業 + 8（賃貸事業 + 4：増収による 分譲事業 + 4：増収に加え、販売経費の減少による）</li> </ul>	
経常利益	+ 30億円	営業増益に加え、支払利息の減少などにより営業外損益が改善 + 6	
最終利益	+ 17億円	特別損益の悪化 23：固定資産売却損の増加 + 56（当期：名鉄運輸グループ運送事業用資産など）	

**対前回(2月)予想：増収・増益**（流通事業やその他事業の収入上ブレ。営業利益は航空関連サービス事業などの増益により上ブレ。）

営業収益	+ 35億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ 流通事業 + 18（百貨店業 + 8 その他物品販売 + 10）その他事業 + 18（設備保守 + 13 その他（情報処理業など） + 5）</li> </ul>	
営業費用	+ 16億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ 商製品原価 + 11（流通事業 + 14 分譲事業 3）</li> </ul>	
営業利益	+ 19億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ 航空関連サービス事業 + 10（増収に加え、修繕費等の減少）</li> <li>+ その他事業 + 5（設備保守 + 2：増収による その他（情報処理業など） + 3：増収による）</li> </ul>	
経常利益	+ 25億円	持分法投資利益の増加などにより営業外損益が改善 + 6	
最終利益	+ 14億円	特別損益の悪化 20：特別損失 + 24（固定資産売却損の増加など）	

# セグメント別営業成績

(単位：百万円、%)

営業収益	2019/3	2018/3	増減額	増減率	直近見込 (2月公表値)	増減額	増減率
交通事業	167,660	167,045	615	0.4	168,000	△ 340	△ 0.2
運送事業	136,863	132,191	4,672	3.5	136,700	163	0.1
不動産事業	92,013	89,158	2,854	3.2	92,100	△ 87	△ 0.1
レジャー・サービス事業	53,419	54,234	△ 814	△ 1.5	53,500	△ 81	△ 0.2
流通事業	142,231	134,453	7,778	5.8	140,400	1,831	1.3
航空関連サービス事業	27,570	25,245	2,324	9.2	26,900	670	2.5
その他の事業	48,012	44,735	3,277	7.3	46,200	1,812	3.9
調整額	△ 45,204	△ 42,260	△ 2,944	—	△ 44,800	△ 404	—
合計	622,567	604,804	17,763	2.9	619,000	3,567	0.6

営業利益	2019/3	2018/3	増減額	増減率	直近見込 (2月公表値)	増減額	増減率
交通事業	24,379	23,942	437	1.8	24,400	△ 21	△ 0.1
運送事業	5,968	5,690	278	4.9	5,700	268	4.7
不動産事業	11,404	10,602	802	7.6	11,300	104	0.9
レジャー・サービス事業	1,796	1,509	286	19.0	1,600	196	12.3
流通事業	1,185	1,266	△ 81	△ 6.5	1,400	△ 215	△ 15.4
航空関連サービス事業	2,803	1,953	850	43.6	1,800	1,003	55.7
その他の事業	1,627	1,585	41	2.6	1,100	527	47.9
調整額	290	426	△ 136	—	200	90	—
合計	49,455	46,976	2,479	5.3	47,500	1,955	4.1

前期比では、「交通事業」「運送事業」「不動産事業」「航空関連サービス事業」「その他事業」で増収・増益  
「流通事業」で増収・減益  
「レジャー・サービス事業」で減収・増益



(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘 要
営業収益	167,660	167,045	615	0.4	鉄軌道事業における輸送人員の増加により増収
営業利益	24,379	23,942	437	1.8	燃料費は増加したものの、鉄軌道事業における増収により増益

## 交通事業の内訳

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
鉄軌道事業	96,696	94,890	1,805	1.9	19,418	18,299	1,119	6.1
バス事業	45,689	48,289	△ 2,599	△ 5.4	3,521	4,155	△ 633	△ 15.2
タクシー事業	28,691	29,836	△ 1,144	△ 3.8	1,285	1,338	△ 53	△ 4.0
調整額	△ 3,417	△ 5,971	2,553	—	154	149	5	—
交通事業計	167,660	167,045	615	0.4	24,379	23,942	437	1.8

## <名古屋鉄道 運輸成績>

(単位：百万円、%)

旅客収入	2019/3	2018/3	増減率
定期外	50,357	49,351	2.0
通勤	32,416	31,791	2.0
通学	7,317	7,231	1.2
定期	39,733	39,023	1.8
計	90,091	88,374	1.9

(単位：千人、%)

輸送人員	2019/3	2018/3	増減率
定期外	127,444	125,789	1.3
通勤	163,798	160,274	2.2
通学	101,994	100,811	1.2
定期	265,792	261,085	1.8
計	393,236	386,874	1.6

(注)定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘 要
営業収益	<b>136,863</b>	132,191	4,672	3.5	トラック事業における運賃単価の上昇を主因に増収
営業利益	<b>5,968</b>	5,690	278	4.9	燃料費や人件費は増加したものの、増収により増益

## 運送事業の内訳

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
トラック事業	<b>158,159</b>	153,355	4,804	3.1	<b>4,824</b>	4,512	311	6.9
海運事業	<b>16,378</b>	15,724	653	4.2	<b>1,108</b>	1,120	△ 12	△ 1.1
調整額	<b>△ 37,674</b>	△ 36,889	△ 785	—	<b>35</b>	56	△ 20	—
運送事業計	<b>136,863</b>	132,191	4,672	3.5	<b>5,968</b>	5,690	278	4.9

(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘 要
営業収益	<b>92,013</b>	89,158	2,854	3.2	賃貸事業における駐車場数の増加や新規賃貸物件の収益寄与に加え、分譲マンションの販売引渡戸数の増加により増収
営業利益	<b>11,404</b>	10,602	802	7.6	増収に加え、分譲事業における販売経費の減少などにより増益

## 不動産事業の内訳

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
不動産賃貸業	<b>46,882</b>	44,347	2,535	5.7	<b>9,372</b>	9,006	366	4.1
不動産分譲業	<b>37,384</b>	37,178	205	0.6	<b>1,573</b>	1,131	442	39.1
不動産管理業	<b>15,017</b>	14,313	704	4.9	<b>571</b>	568	2	0.4
調整額	<b>△ 7,270</b>	△ 6,679	△ 591	—	<b>△ 113</b>	△ 103	△ 9	—
不動産事業 計	<b>92,013</b>	89,158	2,854	3.2	<b>11,404</b>	10,602	802	7.6

## < 名鉄不動産のマンション分譲戸数 >

(単位：戸数、%)

	2019/3	2018/3	増減率
マンション引渡戸数(計)	<b>991</b>	980	1.1
名古屋	<b>201</b>	157	28.0
東京	<b>512</b>	589	△ 13.1
大阪	<b>278</b>	234	18.8

## < 名鉄協商グループの駐車場保有台数・件数 >

(単位：%)

	2019/03	2018/03	増減率
保有台数(台)	<b>77,890</b>	70,066	11.2
保有件数(ヶ所)	<b>3,822</b>	3,139	21.8

(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘要
営業収益	<b>53,419</b>	54,234	△ 814	△ 1.5	名鉄インの新規出店やセントレアホテルの新棟開業などによりホテル業では増収となったものの、観光施設事業における子会社譲渡などにより全体では減収
営業利益	<b>1,796</b>	1,509	286	19.0	観光施設事業における収支改善などにより増益

## レジャー・サービス事業の内訳

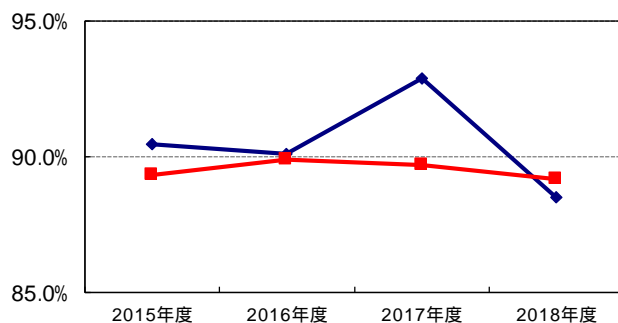
(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
ホテル業	<b>19,543</b>	18,601	942	5.1	<b>1,305</b>	1,375	△ 70	△ 5.1
観光施設事業	<b>20,355</b>	21,808	△ 1,453	△ 6.7	<b>540</b>	227	313	137.9
旅行業	<b>14,190</b>	14,454	△ 263	△ 1.8	<b>△ 70</b>	△ 114	43	—
調整額	<b>△ 669</b>	△ 630	△ 39	—	<b>20</b>	20	0	—
レジャー・サービス事業計	<b>53,419</b>	54,234	△ 814	△ 1.5	<b>1,796</b>	1,509	286	19.0

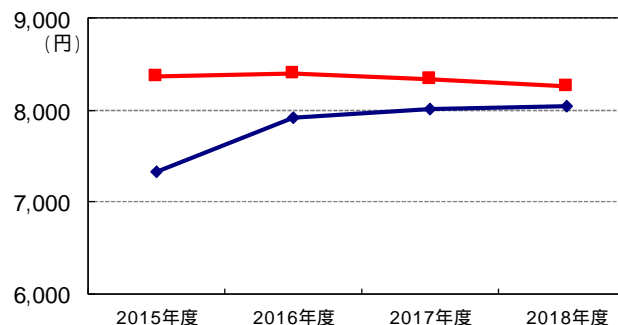
## < 名古屋市内主要グループホテルの稼働率・宿泊単価・外国人宿泊比率 >

◆ ビジネスホテル ■ シティホテル

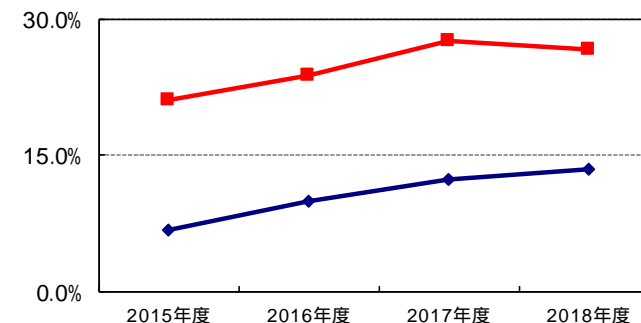
(1) 宿泊稼働率



(2) 宿泊単価



(3) 外国人宿泊比率



(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘 要
営業収益	<b>142,231</b>	134,453	7,778	5.8	建設資材取扱の増加や石油販売価格の上昇により増収
営業利益	<b>1,185</b>	1,266	△ 81	△ 6.5	輸入車販売業における利益率の悪化などにより減益

## 流通事業の内訳

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
百貨店業	<b>65,615</b>	66,335	△ 720	△ 1.1	<b>216</b>	△ 58	274	—
その他物品販売	<b>77,724</b>	69,193	8,530	12.3	<b>810</b>	1,084	△ 273	△ 25.3
調整額	<b>△ 1,108</b>	△ 1,076	△ 32	—	<b>158</b>	240	△ 82	—
流通事業計	<b>142,231</b>	134,453	7,778	5.8	<b>1,185</b>	1,266	△ 81	△ 6.5

(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘要
営業収益	<b>27,570</b>	25,245	2,324	9.2	ヘリコプター事業や調査測量事業に加え、機内食事業での受注増加などにより増収
営業利益	<b>2,803</b>	1,953	850	43.6	増収による増益

## 航空関連サービス事業の内訳

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
航空関連サービス事業	<b>27,907</b>	25,533	2,374	9.3	<b>2,796</b>	1,944	851	43.8
調整額	<b>△ 337</b>	△ 287	△ 49	—	<b>7</b>	8	0	—
航空関連サービス事業計	<b>27,570</b>	25,245	2,324	9.2	<b>2,803</b>	1,953	850	43.6

(単位：百万円、%)

	2019/3	2018/3	増減額	増減率	摘 要
営業収益	<b>48,012</b>	44,735	3,277	7.3	設備工事の受注増加などにより増収
営業利益	<b>1,627</b>	1,585	41	2.6	新規事業拡大に伴う費用が増加したものの、増収により増益

## その他の事業の内訳

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2019/3	2018/3	増減額	増減率	2019/3	2018/3	増減額	増減率
設備保守整備事業	<b>29,176</b>	27,305	1,870	6.9	<b>1,412</b>	1,197	215	18.0
その他事業	<b>19,472</b>	18,395	1,077	5.9	<b>234</b>	383	△ 148	△ 38.8
調整額	<b>△ 636</b>	△ 965	329	—	<b>△ 20</b>	4	△ 25	—
その他の事業 計	<b>48,012</b>	44,735	3,277	7.3	<b>1,627</b>	1,585	41	2.6

(単位：百万円)

	2019/3	2018/3	増減額	摘 要
営業外収益	<b>6,364</b>	6,292	72	
受取利息	<b>27</b>	26	0	
受取配当金	<b>1,646</b>	1,587	59	
持分法による投資利益	<b>2,708</b>	2,926	△ 217	
その他	<b>1,982</b>	1,752	229	
営業外費用	<b>4,220</b>	4,701	△ 481	
支払利息	<b>3,442</b>	3,728	△ 285	
その他	<b>777</b>	973	△ 195	
営業外損益 計	<b>2,144</b>	1,590	553	
特別利益	<b>5,013</b>	3,456	1,556	
固定資産売却益	<b>1,484</b>	959	524	(当期)事業土地等(前期)賃貸資産等
工事負担金等受入額	<b>1,387</b>	976	411	
投資有価証券売却益	<b>486</b>	993	△ 506	(前期)子会社株式等
その他	<b>1,655</b>	527	1,127	(当期)負ののれん発生益(栄開発連結子会社化)
特別損失	<b>10,492</b>	6,606	3,886	
固定資産売却損	<b>5,793</b>	238	5,555	(当期)名鉄運輸グループ運送事業用資産等
減損損失	<b>1,487</b>	3,906	△ 2,419	(前期)神宮前駅西口ビル等(名鉄)
工事負担金等圧縮額	<b>1,228</b>	889	338	
整理損失引当金繰入額	<b>809</b>	644	165	(当期)名鉄犬山ホテル解体費引当等
その他	<b>1,173</b>	926	246	
特別損益 計	<b>△ 5,479</b>	△ 3,149	△ 2,330	



# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019/3	2018/3	増減額	摘 要								
流動資産	182,665	178,036	4,629	受取手形及び売掛金の増加								
固定資産	958,509	942,585	15,923	<table border="1"> <tr> <td>設備投資</td> <td>+ 54,834</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>40,258</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>1,487</td> </tr> <tr> <td>除却</td> <td>598</td> </tr> </table>	設備投資	+ 54,834	減価償却費	40,258	減損損失	1,487	除却	598
設備投資	+ 54,834											
減価償却費	40,258											
減損損失	1,487											
除却	598											
有形固定資産	804,926	789,302	15,623									
無形固定資産	10,779	8,804	1,974									
投資その他の資産	142,803	144,478	△ 1,674	保有上場株式の時価下落による投資有価証券の減少								
資産合計	1,141,174	1,120,622	20,552									
流動負債	259,960	259,686	273									
固定負債	456,421	471,380	△ 14,958	長期借入金の減少								
負債合計	716,381	731,066	△ 14,684									
純資産合計	424,793	389,555	35,237	親会社株主に帰属する当期純利益 +30,457 剰余金の配当 5,237 新株予約権行使に伴う新株発行 +11,260 その他有価証券評価差額金 3,817								
負債純資産合計	1,141,174	1,120,622	20,552									
連結有利子負債合計	417,971	445,568	△ 27,596	〔参考〕純有利子負債残高 392,101 (前期末比 21,877)								

# EBITDA・設備投資額

(単位：百万円)

		2019/3	2018/3	増減額			2019/3	2018/3	増減額
交通事業	営業利益	24,379	23,942	437	流通事業	営業利益	1,185	1,266	△ 81
	減価償却費	18,520	18,499	20		減価償却費	2,081	1,446	634
	E B I T D A	42,899	42,442	457		E B I T D A	3,266	2,713	552
	設備投資額	19,110	18,829	280		設備投資額	571	1,169	△ 597
運送事業	営業利益	5,968	5,690	278	航空関連 サービス事業	営業利益	2,803	1,953	850
	減価償却費	6,174	5,920	254		減価償却費	2,925	2,676	249
	E B I T D A	12,143	11,610	532		E B I T D A	5,729	4,629	1,100
	設備投資額	12,727	8,768	3,959		設備投資額	3,034	5,311	△ 2,277
不動産事業	営業利益	11,404	10,602	802	その他の事業	営業利益	1,627	1,585	41
	減価償却費	6,276	6,071	204		減価償却費	3,570	3,514	56
	E B I T D A	17,681	16,674	1,006		E B I T D A	5,197	5,099	97
	設備投資額	13,140	12,875	265		設備投資額	4,974	4,226	747
レジャー・ サービス事業	営業利益	1,796	1,509	286	合計 (連結間調整後)	営業利益	49,455	46,976	2,479
	減価償却費	1,132	1,249	△ 116		減価償却費	40,258	38,906	1,352
	E B I T D A	2,928	2,758	169		E B I T D A	89,713	85,882	3,831
	設備投資額	1,275	1,056	219		設備投資額	54,834	52,236	2,597

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

## 2018年度 主な設備投資実績

交通事業・・・鉄道車両新造、バス車両取得  
 運送事業・・・トラック車両取得、船舶更新  
 不動産事業・・・賃貸物件の開発・取得  
 ホテル建設



3300系

# 04 2020年3月期 業績予想



(単位：百万円、%)

	2020/3 予想	2019/3 実績	増減額	増減率	中期経営計画 における 2021/3目標
営業収益	<b>635,000</b>	622,567	12,433	2.0	—
営業利益	<b>48,000</b>	49,455	△ 1,455	△ 2.9	<b>50,000</b>
営業外収益	<b>5,500</b>	6,364	△ 864		—
営業外費用	<b>4,000</b>	4,220	△ 220		—
経常利益	<b>49,500</b>	51,599	△ 2,099	△ 4.1	—
特別利益	<b>3,000</b>	5,013	△ 2,013		—
特別損失	<b>6,500</b>	10,492	△ 3,992		—
親親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>29,000</b>	30,457	△ 1,457	△ 4.8	—
E B I T D A	<b>89,400</b>	89,713	△ 313	△ 0.3	<b>93,000</b>
設備投資額	<b>81,100</b>	54,834	26,266	47.9	—
減価償却費	<b>41,400</b>	40,258	1,142	2.8	—
純有利子負債	<b>400,000</b>	392,101	7,899	2.0	—

営業収益は、不動産事業や運送事業を中心に増収を予想。営業利益は、人件費や燃料費の増加を見込むことに加え、鉄軌道事業において修繕費など諸経費の増加を見込み、全体では減益。経常利益は、営業減益に加え、営業外損益の悪化により減益。当期純利益は、特別損益は改善するものの、経常減益により減益となる見通し。

対前期：増収・減益。不動産事業を中心に増収の一方、人件費、修繕費、燃料費などの増加を見込み、減益の見通し。

(単位：億円)

<p><b>営業収益</b> + 124億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>+ 不動産事業 + 110 (分譲事業 + 90: マンション販売戸数991戸 1,050戸 東京地区での増加を見込む 賃貸事業 + 21: 栄開発連結子会社化及び駐車場収入の増加)</li> <li>+ 運送事業 + 27 (トラック事業 + 22: 運賃単価上昇 海運事業 + 5: 新船導入による旅客増、モーダルシフトによる物流増)</li> <li>+ 鉄軌道事業 + 9 (輸送人員 + 0.9%)</li> <li>- 航空関連サービス事業 13 (前期特需 (自然災害による受注増) の反動減)</li> </ul>
<p><b>営業利益</b> 14億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 交通事業 16 (諸経費等増加による)</li> <li>- 航空関連サービス事業 14 (減収による)</li> <li>- 人件費 + 21 (運送事業等を中心に給与賞与手当などが増加)</li> <li>- 修繕費 + 14 (交通事業 + 6 航空関連サービス事業 + 6)</li> <li>- 燃料費 + 11 (運送事業 + 8 交通事業 + 3)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">                     燃料費の計画前提…WTI: 69 \$ /バレル 為替相場: 110円 / \$                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 減価償却費 + 11 (運送事業 + 6 流通事業 + 3)</li> </ul>
<p><b>経常利益</b> 20億円</p>	<p>持分法投資利益の減少などにより営業外損益が悪化 6</p>
<p><b>最終利益</b> 14億円</p>	<p>特別損益の改善 + 20 (固定資産売却損減少による + 58 減損損失増加による 12)</p>

## 名古屋鉄道運輸成績(予想)

(単位：百万円、%)

旅客収入	2019年度 今回予想	2018年度	増減率
定期外	51,136	50,357	1.5
定期	40,022	39,733	0.7
計	91,158	90,091	1.2

(注)定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

## 名古屋鉄道2019年4月輸送人員

(単位：千人、%)

輸送人員	2019年度 今回予想	2018年度	増減率
定期外	128,812	127,444	1.1
定期	267,856	265,792	0.8
計	396,668	393,236	0.9

輸送人員	2019年 4月単月	2018年 4月単月	増減率
定期外	11,352	10,799	5.1
定期	22,501	22,728	△ 1.0
計	33,853	33,527	1.0

# 2020年3月期 セグメント別営業成績予想



(単位：百万円、%)

営業収益	2020/3 予想	2019/3 実績	増減額	増減率	摘要
交通事業	168,700	167,660	1,040	0.6	鉄軌道事業での増収
運送事業	139,600	136,863	2,737	2.0	運賃単価の上昇を主因に増収
不動産事業	103,000	92,013	10,987	11.9	分譲マンション販売戸数の増加に加え、賃貸事業での駐車場事業の拡大及び新規連結子会社加入により増収
レジャー・サービス事業	53,100	53,419	△ 319	△ 0.6	旅行事業における需要増加による増収の一方、ホテル業における既存ホテル建替による営業休止により減収
流通事業	141,100	142,231	△ 1,131	△ 0.8	百貨店業での減収
航空関連サービス事業	26,300	27,570	△ 1,270	△ 4.6	ヘリコプター事業での減収
その他の事業	50,300	48,012	2,288	4.8	設備保守事業での増収
調整額	△ 47,100	△ 45,204	△ 1,896	—	
合計	635,000	622,567	12,433	2.0	

営業利益	2020/3 予想	2019/3 実績	増減額	増減率	摘要
交通事業	22,800	24,379	△ 1,579	△ 6.5	人件費や燃料費の増加に加え、鉄軌道事業における修繕費等諸経費の増加により減益
運送事業	5,900	5,968	△ 68	△ 1.1	人件費や燃料費等の増加により前期並み
不動産事業	12,800	11,404	1,396	12.2	増収及び分譲事業における利益率改善により増益
レジャー・サービス事業	1,700	1,796	△ 96	△ 5.3	減収による減益
流通事業	1,400	1,185	215	18.1	輸入車販売業における利益率の改善などによる増益
航空関連サービス事業	1,400	2,803	△ 1,403	△ 50.1	減収及び諸経費の増加による減益
その他の事業	1,700	1,627	73	4.5	増収による増益
調整額	300	290	10	—	
合計	48,000	49,455	△ 1,455	△ 2.9	



# 2020年3月期 EBITDA・設備投資額予想

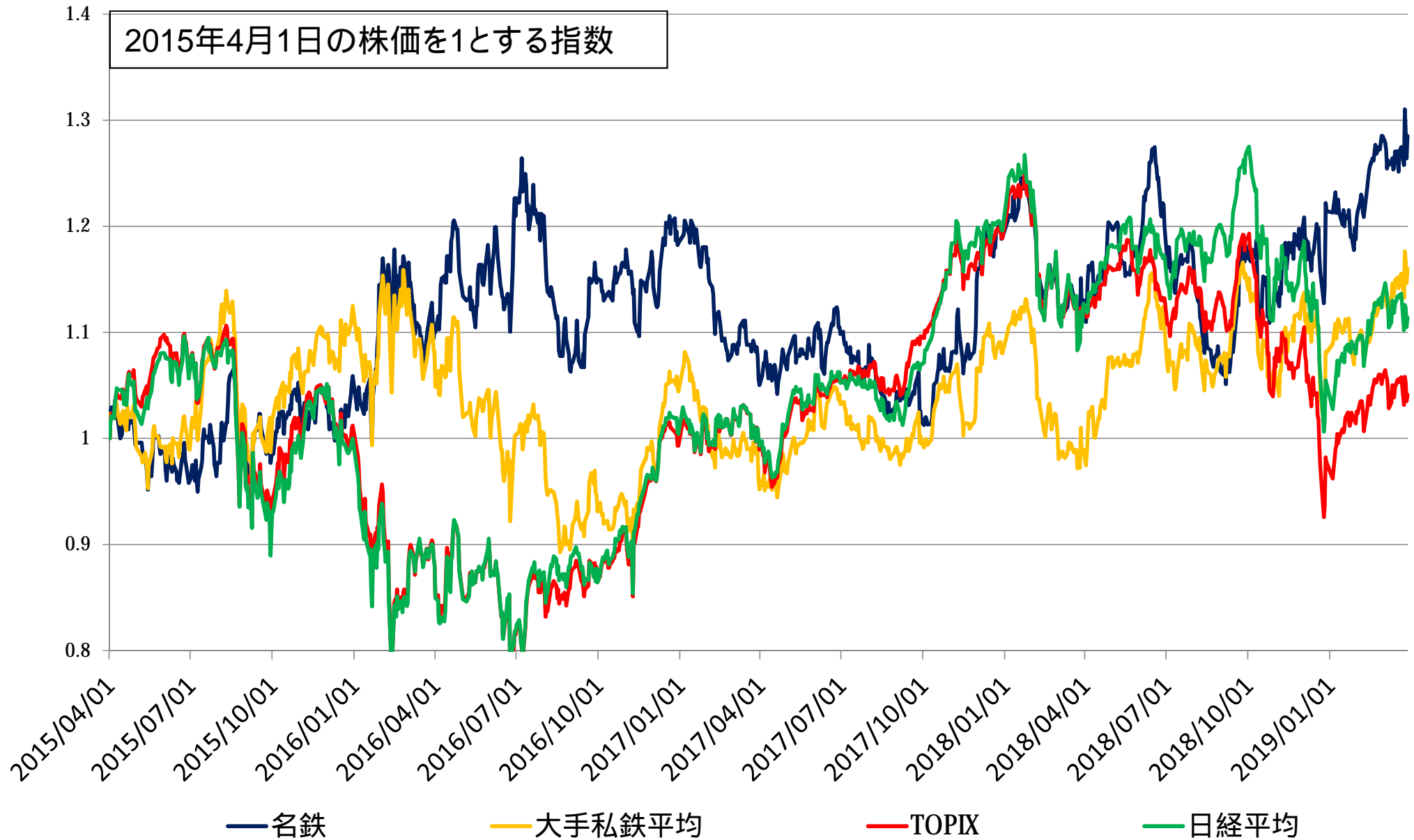


(単位：百万円)

		2020/3 予想	2019/3 実績	増減額			2020/3 予想	2019/3 実績	増減額
交通事業	営業利益	22,800	24,379	△ 1,579	流通事業	営業利益	1,400	1,185	215
	減価償却費	18,600	18,520	80		減価償却費	2,300	2,081	219
	E B I T D A	41,400	42,899	△ 1,499		E B I T D A	3,700	3,266	434
	設備投資額	25,400	19,110	6,290		設備投資額	1,000	571	429
運送事業	営業利益	5,900	5,968	△ 68	航空関連 サービス事業	営業利益	1,400	2,803	△ 1,403
	減価償却費	6,800	6,174	626		減価償却費	2,800	2,925	△ 125
	E B I T D A	12,700	12,143	557		E B I T D A	4,200	5,729	△ 1,529
	設備投資額	12,300	12,727	△ 427		設備投資額	3,400	3,034	366
不動産事業	営業利益	12,800	11,404	1,396	その他の事業	営業利益	1,700	1,627	73
	減価償却費	6,600	6,276	324		減価償却費	3,600	3,570	30
	E B I T D A	19,400	17,681	1,719		E B I T D A	5,300	5,197	103
	設備投資額	27,600	13,140	14,460		設備投資額	8,600	4,974	3,626
レジャー・ サービス事業	営業利益	1,700	1,796	△ 96	合 計 (連結間調整後)	営業利益	48,000	49,455	△ 1,455
	減価償却費	1,200	1,132	68		減価償却費	41,400	40,258	1,142
	E B I T D A	2,900	2,928	△ 28		E B I T D A	89,400	89,713	△ 313
	設備投資額	2,800	1,275	1,525		設備投資額	81,100	54,834	26,266

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

	BUILD UP 2020			2020年度 中計目標
	2017年度 実績(参考)	2018年度 実績	2019年度 予想	
営業利益	469億円	494億円	<b>480億円</b>	500億円
E B I T D A (営業利益+減価償却費)	858億円	897億円	<b>894億円</b>	930億円
< 参考 >				
ROE (純利益/自己資本)	8.5%	8.1%	<b>7.2%</b>	8%程度
ROA (営業利益/総資産)	4.2%	4.4%	<b>4.2%</b>	4%程度
純有利子負債 / E B I T D A 倍率	4.8倍	4.4倍	<b>4.5倍</b>	5倍程度
株主資本比率	21.6%	24.4%	<b>26.5%</b>	25%程度



(©日本経済新聞社)

東武・相鉄・東急・京急・小田急・京王・京成・西武・近鉄・阪急阪神・南海・京阪・西鉄・名鉄の計14社平均



本資料の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、リスクや不確実性を含んだものです。実際には、様々な要因により異なる結果となる場合があることをご承知おきください。